



立梅用水沿いの小道から和歌山別街道へ
多気郡多気町

朝柄付近

スタートは見晴らしの良い「ゆとりの丘」の丘。ここから立梅用水添いの小道をたどり、和歌山別街道を歩いて五箇篠山城跡へ上ります。立梅用水は、江戸時代後期に造られた農業用の水路。これに沿って細い道が整備されています。朝柄のまちの中を通る和歌山別街道は、紀州藩の本城と田丸城を結び、伊勢参宮の道として多くの旅人が通った道です。そして、五箇篠山城跡は中世の山城。江戸後期から中世へ、歴史をさかのぼるように歩き、また「ゆとりの丘」に戻ります。

今回、案内をお願いしたのは、立梅用水土地改良区事務局長の稲葉 基文(もとふみ)さん。苦難を乗り越えて用水を造った先人たちの心に思いを馳せながら歩きました。

取材・文：堀口裕世



多気町立勢和図書館



「ゆとりの丘」には広々とした芝生や遊具が



高齢者福祉施設「ささゆり苑」



フェンスの扉を開けて出入りを

広大な公園から

スタート地点の「ゆとりの丘」は、広大な芝生広場や、多気町立勢和図書館などがある地域の交流拠点です。芝生エリアには遊具も設置され、最後に訪れる五箇篠山城跡もこの公園の一部。見晴らしがよく、手入れの行き届いた心地よい場所になっています。今回は、ここが出发点。この中央を通る道の一番奥、高齢者福祉施設「ささゆり苑」横の金属製のフェンスに続く出入り口を通ります。「ここは、出入りは自由なのですが、鹿な

どが入るのを防ぐため柵を取り付けました」と稲葉基文さん。出入りした後は、忘れずに扉を閉めましょう。

立梅用水は先人の努力のたまもの

扉の外には、水路とそれに沿った小道が続いています。ここから右へ、水の流れて沿って上流方向に進みます。進行方向に向かって左側は水路沿いにめぐらされたフェンスの向こうに森が続いており、右側は「ゆとりの丘」です。

「立梅用水は文政6(1823)年に完

成した農業用水路です。櫛田川をせき止めて水を引き、山と平地の間を流れています。飯南町桜橋下流の堰から最終地点の多気町丹生まで、その全長は28キロにも及びます。今回のコースの前半は、その一部の1.5キロ余りを歩きます。川よりも高い位置に農地があるため、昔この地域の人々は大変苦しい思いをしたそうです。苦勞の末に用水ができ、水路には今もきれいな水が流れ、200年を経た現在でも農業用水として活用されています。「元禄15(1702)年に最初の見取り図ができてから、完成まで



■ 行程図 所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。

START
「ゆとりの丘」 約130m → 「ささゆり苑」横の出入り口 約1.3km → 薬師堂 約250m → 空石積築堤 約800m
↑ すぐ ↑ 五箇篠山城跡 約250m → 道標 約400m → 八柱神社 約1km → 和歌山別街道 約250m → 「大谷ゲート」



「大谷ゲート」



和歌山別街道



八柱神社



五箇篠山城跡に上がる階段と石碑



城跡の上から「ゆとりの丘」を見渡す

旧街道ならではのうねりを見せる道に沿って歩いていくと、この道と並行する国道368号をつなぐ道の向こうに、昌慶寺が見えます。文明年間(1469~1487)に創建された曹洞宗の寺院で、桃山時代の「雲版」(多気町指定文化財)が納められているそうです。さらに進むと道は再び朝柄川と交差し、川に架

松坂をつなぐのが和歌山街道、本城とやはり飛び地である田丸を結ぶのが和歌山別街道です。街道沿いは民家が並び、民家が途切れたところからは山に向かつて広がる田園の中を朝柄川が横切る風景が見えます。



温故橋のそばの道標

かる橋の向こうに見えるのは八柱神社(五箇谷神)。その後ろ側は桜の名所とされているそうです。時間があれば国道を渡って、昌慶寺や八柱神社に寄ってみるのもいいでしょう。そのまま行くとやがて温故橋が見え、その手前に石の道標があります。橋の反対側、右手に上がっていく道が「ゆとりの丘」の入り口です。

問「立梅用水土地改良区」

TEL 0598-4914522

坂道を上がり、五箇篠山城跡の階段を上ります。ここは、鎌倉時代に築かれた北畠氏家臣・野呂氏の居城跡とされています。標高140メートルの頂上まで上り、眼下の山や里を見渡しましょう。中世の武士の気分で朝柄川を眺めながら、階段を降り、ゴールです。この辺りは、初夏にはささゆりが咲き乱れるのとこの。桜の木も多く、用水沿いには梅やアジサイなども植えられていますので、四季折々に花々が楽しめることでしょう。

起伏に沿って連なる大小いくつものカーブを超えて行くと、右側の景色は、木立が切れて田園風景が広がったり、石

起伏に沿って連なる大小いくつものカーブを超えて行くと、右側の景色は、木立が切れて田園風景が広がったり、石

手すりのついた小さな橋が架かっているところは、薬師堂。橋の向こうはきれいに草が刈られ、広場の端に小さなお堂が建てられています。「この地域の人たちが大切にされているお堂です。用水沿いには、地域によっていくつかのお社などが祀られています。」

和歌山街道・和歌山別街道は、江戸時代に紀州和歌山藩によって整備された道で、和歌山にある本城と飛び地である

赤茶色の手すりが付いた「大谷ゲート」の手前に分かれ道があります。このまま水路沿いにずっと進んで行くこともできますが、今回は、右に行く坂道を下ります。少し下ると、坂道は朝柄川を越えて田園風景の中に入っていきます。人家のある場所に進むと、和歌山別街道に合流しますので、そのまま右(東方向)へ進みます。

和歌山別街道へ

立梅用水の旧水路跡で、町の文化財に指定されているとのこと。のぞき込むと、側面にも下側にも、びっしりと自然石が積みまれ、先人たちの苦勞がしのべれます。



用水には今もきれいな水が流れる



薬師堂



空石積築堤は昔の水路跡